

平成26年度東北総体山岳競技ブロック会議
(公社) 日本山岳協会競技部ブロック別研修会報告

参加者：清野会長・佐々木副会長・高橋副会長・斎藤競技部長

1. 期 日 平成26年11月29日(土)～30日(日)

2. 場 所 岩手県盛岡市『サンセール盛岡』

3. 出席者

青森岳連 服部会長・川端理事長

秋田岳連 斎藤会長・C級審判7名・運営研修1名

宮城岳連 相沢会長・吉田副会長・斎藤理事長

福島岳連 引地副会長・佐藤理事長・菅野競技委員長・C級審判受講者2名

山形岳連 清野会長・佐々木副会長・高橋副会長・斎藤競技部長

岩手山協 高橋会長・吉田副会長・武田副会長・小山理事長・佐藤指導部長・
遠藤事務局長・C級審判13名・運営研修18名 等42名出席

日本山岳協会 西原競技運営委員長・佐原競技常任委員 2名出席

4. 内 容

定刻に全体会議開会行事を開催、吉田副会長が開会の挨拶、高橋会長が主管会長挨拶、講師紹介後日本山岳協会西原委員長から挨拶、遠藤事務局長から日程説明のあと東北総体山岳競技ブロック会議・競技運営委員認定研修・C級審判認定研修に別れ各々会場を別にして開催。

東北六県山岳競技ブロック会議について

山形岳連は斎藤競技部長が運営認定講習に出席、会長以下副会長はこの会議に出席。

始めに平成26年度日山協第3回理事会報告を東北選出高橋(岩手山協会長)理事から資料により報告。開催日時、開催場所、出席者の状況、神崎会長から長崎ジャパンカップ、インターハイ、徳島全日、長崎国体の開催が順調に終了した旨報告、その他公益法人としての理念、目標等堅持し日本の山岳界のリーダーとしたい旨挨拶。

各種報告事項について (登山月報に掲載済み)

特に、日山協のワーキンググループの進捗状況について・御嶽山噴火について一般の方々からのクレーム・高校生の選手登録者数7,427人となった。・常務理事会の会議録の開示・流動資産の定期預金の分類の仕方・予算執行上の問題・山岳共済の加入状況・各県参与の推薦について各県2名以上のお願い・2020年以降の国体の開催を室内で開催を等報告。

議事として平成27年予算編成方針・会費及び参与の賛助会費に関する内規の改正（保留し再検討）・その他報告があり閉会。

報告事項：第41回東北総合体育大会山岳競技開催結果について
福島岳連佐藤理事長から開催概要の報告とお礼があり、菅野審判長から報告書（各県送付済み）により成績結果など報告。これに各県出席者から会場内での競技役員と一般の方の接触・規則上にはないが役員の服装について・表彰状の扱いについて等質疑があった。

協議題1号：東北総合体育大会山岳競技事項として岩手山協から提案
第42回東北総合体育大会山岳競技開催要項及び運営について
来年開催予定の標記大会について、期日平成27年7月24日～26日盛岡市で開催。会場、競技区分、競技規程などについて説明後原案の通り了承された。
又、開催要項、運営については前段了承された内容と日山協山岳競技規則に準じ開催する旨説明があり了承された。

協議題2号：火山災害に対する備え及び要望について
福島岳連から最近の火山災害に対する備え又要望について説明があり、福島県内で火山活動に対する備えとして各種届、行政に対する要望等がまとめられ関係機関団体に要望した旨説明があった。

協議題3号：平成27年度第54回全日登山宮城大会への協力依頼について
宮城岳連から来年10月9日（金）～11日（日）に開催予定の平成27年度全日大会宮城大会が『栗駒山』とその周辺で開催されることに伴い、東北各県から5名以上の参加者があるように協力願いたい旨説明。更にルートが岩手、秋田側からのコースではそれぞれの県で手伝いをお願いしたい旨依頼があった。

協議題5号：公益社団法人日本山岳協会平成27年度・28年度東北ブロック代表理事の推薦について
岩手県山協の高橋会長が現在東北代表理事を務めておられるが、来年3月の任期満了に伴い、東北地区の確認事項により明年から2年間秋田岳連会長の斎藤会長（斎藤喜代志氏・秋田岳連会長）を推薦することで一致した。

協議題6号：日本山岳協会と各県岳連（協会）の組織について
ブロック会議幹事県から提案があり、各県の現状に付いて報告。
各県それぞれ現状を報告、公益法人として日山協が組織改正したが、地方の岳連

は、財政、人材、県体協、加入団体の減少、会員の高齢化、競技と登山の齟齬等が原因で必ずしも日山協と同じようにはなっていない現状と課題が報告された。

協議題 7 号：日山協参与制度について

高橋理事からの報告にも有った通り日山協参与が減少しており、これを増やしていきたい、その為各県から 2 名以上位推薦をとのことであった、参与を増やしたり、租税対策の為現行の会費の内容を検討するなどもくろんでいるが、各県の現状は、各県とも現職の会長で入会しているのは岩手、山形で他は以前入会した方が現在に至っている状況で、参与になる、なって協力をという姿が希薄しているしたがって、参与制度をなくして個人会員制度を早く整備すべきではないか等意見がだされた。

協議題 8 号：競技登山と岳連（協会）運営について

高体連登山部の加盟や岩手国体の開催、更に国体とワールドカップ等の国際大会の開催で岳連内部の運営が大きく変化している現状を各県はどのように運営しているか。各県から会員実態、財政運営、アルパイン、ガイド、商業ジム、高体連登山部の実態、中体連、中学生の国体出場の実態について報告され現在の競技登山のもつ性質と、アルパインを中心とした岳連運営の齟齬について意見を深めた。

協議題 9 号：財政について

岳連運営の要である財政状況について各県から報告、各県とも加盟団体の減少、会員の高齢化、補助金、助成金等の減少、によりそれなりの運営であることが報告された。

更に、斎藤競技部長は、本年開催された長崎国体の運営状況について、日山協競技運営委員長西原委員長から研修を受け、最近の選手と競技役員との関係について研修を深めた。

続いて、閉会行事が行われ、次期開催県青森県服部会長から来年 11 月 28 日～29 日に開催する旨挨拶があった。（閉会 11 時 30 分） 以上報告します。

文責：清野